民営鉄道のバリアフリー化への取組みについて

- ~ さまざまな制約の下での懸命な対応(ハード対策)~
- ~ マナー啓発等も連携した取り組み(ソフト対策)~

平成24年3月19日 (社)日本民営鉄道協会

民営鉄道のバリアフリー推進

- (1)ハード対策(施策)の基本方針と実情
 - ①エレベーター ⇒段差解消については約9割を達成(2010年度末)
 - ②エスカレーター
 - ③駅施設のバリアフリー
 - 4車両のバリアフリー
 - ⑤ホームドア等(ホームドア・可動式ホーム柵)

⇒導入済 : 東京メトロ丸ノ内線、副都心線、南北線、有楽町線(一部)等)、

東急電鉄(目黒線)、京急電鉄(空港線羽田国際ターミナル駅)

⇒導入予定:東京メトロ有楽町線 (2012年度全駅予定)、京王電鉄(京王線新

宿駅)、小田急電鉄(小田原線新宿駅)、東急電鉄大井町線(大井

町駅)

- ※国及び地方公共団体等のご理解・ご協力・ご支援(助成等)と各社のさまざまな 努力により、バリアフリー施策(エレベーターの設置等)を着実に推進
- ※さまざまな制約(技術面・物理面・安全面・経済面)により、一部に整備困難なケースも存続(民営鉄道(民間会社)のみの対応には、限界も)
- ※民営鉄道としては、初期投資のほか、ランニングコスト(日常のメンテナンス やオペレーションコスト)の負担が大きいこと等から
 - ①国及び地方公共団体のさらなるご理解、ご協力、ご支援(助成等)をお願い したい
 - ②助成措置については、制度拡充と十分な財源の確保をお願いしたい
- (2)ソフト対策(施策)の基本方針
 - ①社員に対する教育・研修活動の充実とあわせて、ソフト対策(施策)についても、 国・地方自治体・鉄道事業者等が連携して推進
 - ②この12月から、鉄道関係者が連携して、「鉄道利用マナーアップキャンペーン」 を実施



エスカレーター





エスカレーター

動く歩道

駅施設のバリアフリー







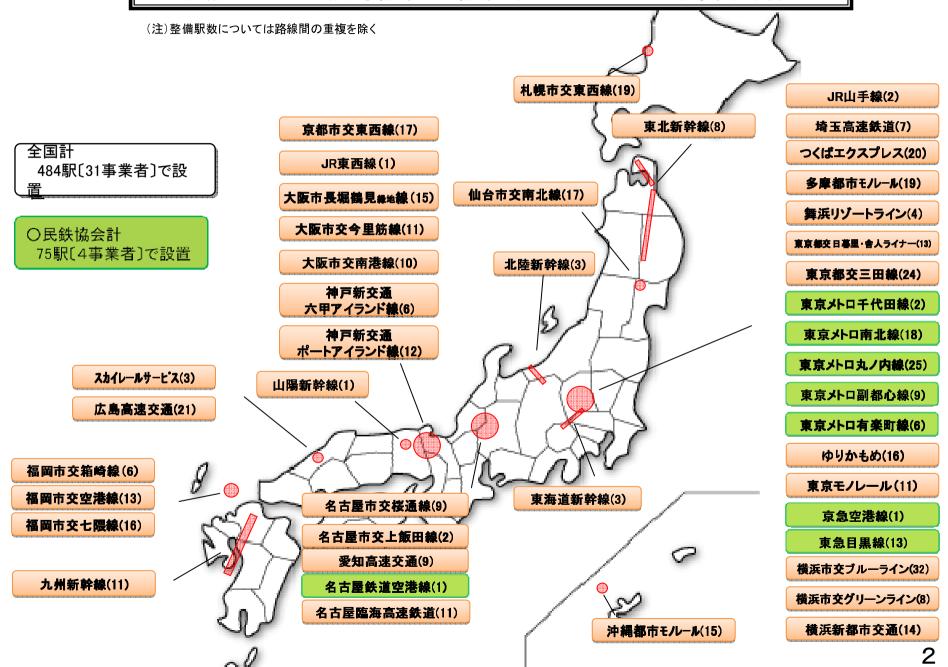
「単内条内 (表示器

車両間転落防 車いすス 止保護柵 ペース

可動式ホーム柵等



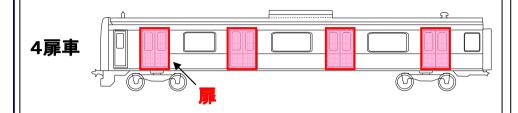
可動式ホーム柵等設置の設置状況(平成22年度末現在)



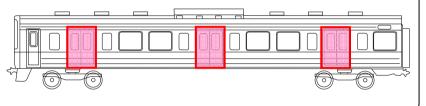
既設駅への可動式ホーム柵等の整備に係る技術的課題

●列車の扉枚数

車両の扉枚数が異なる列車が走行する路線では、設置が難しい。

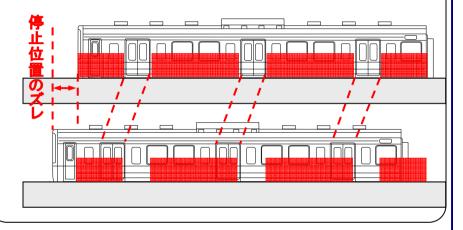






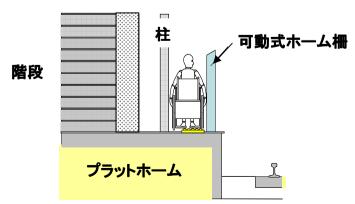
●列車の停止位置の精度

車両扉位置と可動式ホーム柵等の開口部を一致させるため、 列車を定位置に止める必要がある。ATO(自動列車運転装 置)等のない路線では、車両や線路に定位置に止めるため の設備の設置が必要。



●狭い箇所への設置

狭いホームの場合には、階段部等で、車いす等が通行 するスペースを確保するための改良工事が必要。



●設置工事·費用

ホーム縁端部での工事となることから、列車運行時間帯での工事が難しく、夜間工事となる。

また、ブロック積みのホームにおいては、可動式 ホーム柵等を設置するにあたり、ホーム全体の大 規模な補強工事が必要となる。

これらの工事のため、多額の費用が必要。

鉄道利用マナーアップキャンペーン~「ひと声マナー」はじめよう



